弥生時代の遺跡にも注目

中央公民館 縄文文化講座始まる

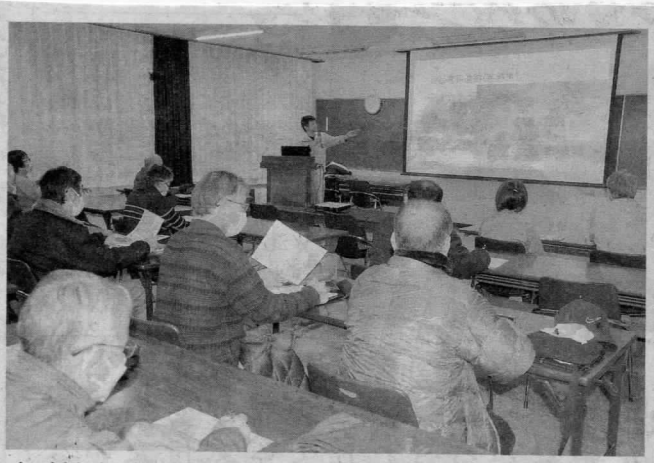
茅野

茅野市中央公民館の縄文文化講座が15日、同館で始まった。全2回の講座で、テーマは『縄文』から『弥生』への転換点、時代や文化の移り変わりを巡って」。初回は市文化財課の堀川洸太朗さんが「信州の弥生時代」と題して講義した。

今年度の講座は、弥生時代の住居址や墓地に加え数多くの遺物が出土した永明中学校校庭遺跡の発掘調査の結果を基に、縄文時代を知る上で弥生時代にも注目してもらおうと企画。実際に同遺跡の発掘調査を行った同課担当者2人が講師を務めている。

初回は堀川さんが、弥生時代の各時期の県内の主要な遺跡・遺構の概要を地域ごとに紹介した。「弥生時代後期には地域性が出てくる」といい、諏訪地方では岡谷市の橋原遺跡と茅野市のJR茅野駅周辺の遺跡群を比較。橋原遺跡と永明中学校校庭遺跡から出土した土器の文様を比べ、異なる特徴を示して「橋原遺跡は下伊那地域の影響、茅野の遺跡群は北信や佐久地域とのつながりがあるとみられる」と説明した。

市内外の約30人が受講。第2回は22日夜、同課の吉村璃来さんが「祭祀具から見る縄文時代から弥生時代の移行期」と題して話す。



信州の弥生時代に理解を深めた講座